

墨田区における地域福祉の推進とボランティア活動への参加促進を図るため、今年度で第10回目となる「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム」を、令和3年7月3日（土）に開催しました。

今年度は「本当はみんなつながりたい ～コロナ禍で、私たちにできることって何だろう？～」をテーマとし、すみだリバーサイドホール、情報経営イノベーション専門職大学（IU）を会場として、各会場と富山県黒部市の3か所をオンラインでつなぎ約100名の方にご参加いただきました。

■ 講演 「頼みの綱は、地域のか」※富山県黒部市より Zoomによる配信

講師 小柴 徳明 氏（富山県黒部市社会福祉協議会）

黒部の福祉を良くする活動計画で定められた「5 GOALS for 黒部」を例に、地域の支え合いやまちづくりにおいて大切なことを「住民主体」という視点からお話いただきました。



IUでの講演の様子

○講演の様子は、墨田区公式YouTubeで視聴が可能ですのでぜひご覧ください。→



■ グループディスカッション

「新型コロナの状況を踏まえたつながり方、情報の伝え方とは何か？」

【グループディスカッション意見の一部抜粋】

- 1 コロナ禍での福祉の課題・問題の共有
 - ・社会的孤立の深まり、閉じこもりがち、不安感が強くなる。
 - ・地域での活動が制限されているため、見守りができなくなっている。
- 2 つながり方・情報の伝え方
 - ・SNSやインターネット技術を利用する。
 - ・あいさつなど日頃の関わりを大事にする。
 - ・「管理できない」という理由で活動自体を中止にしてしまうのではなく、環境を整えた上で、規制を緩和していく。
- 3 考えた繋がり方や情報の伝え方についての課題
 - ・インターネットが活用できない人がいる。情報格差などが生じている。
 - ・世代の違う方と地域でつながることが難しい。安全面やプライバシーの課題がある。

■ 発表

各グループ話しあったことをリバーサイドホール、IU の各1グループの代表者に発表をしていただきました。



リバーサイドホールでの発表の様子

■ 講評

小柴氏には、各会場のそれぞれ1グループのグループディスカッションの様子を Zoom で確認し、各グループの発表を聴いて、小柴氏より本フォーラムの講評をいただきました。

ICT 利活用、災害時の声かけなどを例に「助けに気づいてあげる社会」の重要性や活動を“見える化”することなど、情報発信が今後活動者増やしていく上で大切だというお話しを伺うことができました。



IUでの講評の様子

☆詳細については9月上旬頃ホームページで公開します。